

## 『こんにちは県議会です』松本市安曇・奈川地域」開催概要

- 1 開催日時 平成28年11月11日（金）午後0時45分から午後2時30分
- 2 開催場所 松本市安曇基幹集落センター（松本市安曇）
- 3 出席者
  - 地域の課題に取り組んでいる団体・グループの皆様  
安曇・奈川地区町会連合会、NPO法人梓川流域を守る会、さとやまエネルギー(株)、  
奈川地区金原町会、奈川振興公社、ばんどこファーム実行委員会、松本市アルプス観光協  
会、松本市奈川観光協会、安曇・奈川地区公民館、安曇・奈川地区各町会、市議会議員等
  - 向山公人議長、下沢順一郎副議長
  - 広報委員  
宮本衡司議員、荒井武志議員、小川修一議員、和田明子議員
  - 地元議員  
清沢英男議員、備前光正議員、両角友成議員、中川宏昌議員、寺沢功希議員、  
丸山大輔議員、百瀬智之議員
- 4 意見交換テーマ 「中山間地域の活性化について」
- 5 開催内容  
地域の概要紹介、取組事例発表、意見交換・懇談
- 6 参加者 47名（出席者38名、傍聴者9名）



## ○開会

(司会：下沢副議長)

皆さん、こんにちは。ただ今から『こんにちは県議会です』松本市安曇・奈川地域を始めさせていただきます。

私、本日の進行を務めます、長野県議会副議長で広報委員会委員長を務めております松本市選出の下沢順一郎でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、長野県議会を代表いたしまして、向山公人長野県議会議長から、ごあいさつ及び県政報告を申し上げます。

## ○あいさつ・県政報告

(向山議長)

皆さん、こんにちは。御紹介をいただきました長野県議会議長の向山公人でございます。

本日は、松本市安曇・奈川地域におきまして「こんにちは県議会です」を開催いたしましたところ、多くの皆様方に御参加をいただきましてありがとうございます。

また、開催にあたりまして、御多用の中、坪田副市長様をはじめ、松本市の皆様方にも御協力を賜りましたことについて、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

さて、開催に先立ちまして、若干、県政について御報告をさせていただきます。長野県議会では、9月21日から10月7日まで9月定例会が開催されました。

お手元に、9月定例会の概要などを掲載した広報紙をお配りしてありますので、お目通しをいただければと思います。

9月定例会では、知事から平成28年度一般会計補正予算案、また教育委員会委員の選任などの議案が提出されまして、これらの議案については本会議や委員会でも慎重に審議を行ったところであります。

本会議での主な審議の一つとしては、県が来年4月に予定しております現地機関、それぞれの地域の地方事務所でございますが、この見直しに係る県の実施案について議論をいたしました。

議員からは「現在ある10の地方事務所を廃止し、地域振興局を新たに設置することについて、これまでとどのようなことが違うのか、また優位性が出てくるのか」というような質問が出されまして、知事からは、「地域振興局長の権限を強化し、知事や副知事に直結のポジションとする中で、これまで以上に意思疎通を図り、市町村や地域が抱えている『横断的な課題』に対して、他の機関とともに、総合的に対応できる体制をつくりたい」という答弁があったところでございます。

さらに、地域の「横断的な課題」に取り組むには、地域振興局に財政面での相応の権限が必要であるという意見が出されるなど、様々な角度から議論をいたしたところでございます。

広報紙の裏面には委員長報告を掲載しておりますが、総務企画警察委員会においても、関連条例案の提出が見込まれる次期定例会までには、地域振興局の担う業務の範囲や権限、見直しに要する経費などを明確にするように要望が出されたところでございます。

次に、大北森林組合等補助金不適正受給問題についての議論です。議員からは「県民に対する説明等」

についての質問がされ、「事案の経緯、県の対応状況についても、外部有識者の客観的な立場から、改めて県民に説明する機会を設けるよう検討したい」という答弁があったところでございます。

また、裏面の委員長報告にもございますように、農政林務委員会において、大北森林組合の代表理事及び専務理事を参考人として出席を求め、補助金等返還計画の見直しを含め、組合の抜本的経営改善に向けた取組等について意見聴取を行いました。

次に、再生可能エネルギーの推進については、メガソーラー設置や小水力発電の展望等について議論をいたしました。議員から「小水力発電の可能性」についての質問がされ、「今後も関係部局が連携し、小水力発電の潜在能力を活かす取組を行いたい」という答弁がありました。

本日、取組事例を発表していただく方の中にも、小水力発電事業を進めておられる方がいらっしゃいますので、現状につきまして、また具体的にお話をお伺いできればと思っております。

それから、広報紙の裏面で、先ほど一部触れさせていただきましたが、各委員会の審査並びに現地調査等の状況についても掲載をいたしております。

また、年に4回行われている定例会につきましては、これまで開会日のおおむね1週間ほど前に日程を公表してきたところでございますけれども、この定例会の日程の公表のあり方について、外部の皆さん方から、もう少し前に、定例会の日程を公表をしてもらいたいという要望もございまして、それを我々も検討をした結果、定例会の最終日に次の定例会の日程を予定として公表することにいたしました。

次の定例会につきましては、11月24日の開会で、16日間の会期を予定しているところであります。

さて、本日の「こんにちは県議会です」は、平成15年度から開催しており、今回で22回目となります。今回は「中山間地域の活性化について」をテーマに、住民の皆様方と意見交換を行い、それぞれのお立場で活躍をされております皆様方から活動状況、また現況等について御意見をお伺いすることを目的として開催させていただきました。

この機会に、御出席いただいている皆様方からは忌憚のない御意見を頂戴いたしまして、実りある懇談となることを期待しているところでございます。

いただきました御意見は、今後の県政の中で、今日出席している県議も地元の県議から広報委員それからまたそれぞれ所属をしている委員会もございまして、そのような中で皆様方からいただいた御意見等については取組をして、できるだけ皆様方の意に沿えるような活動につなげていきたいと思っておりますので、皆様方の御協力のほどをよろしくお願い申し上げまして、私のごあいさつと簡単な県政報告にさせていただきます。今日はよろしくお願ひいたします。

(下沢副議長)

続きまして、松本市の坪田明男副市長様よりごあいさつをいただきます。

(坪田副市長)

松本市長の菅谷昭でございますが、昨日から世界健康首都会議と、自身でその会議を主催しておりますので、こちらにお伺いすることができませんでした。御紹介いただきました副市長の坪田明男でございます。

すが、私の方から行政を代表して一言申し上げたいと思います。

本日は、松本市の中山間地域における懇談会、安曇・奈川地区を対象に開催いただきまして、誠にありがとうございます。

県議会におかれましては、日ごろより本市の市政全般にわたりまして御理解、御協力を賜り、誠にありがとうございます。心から感謝を申し上げるところでございます。

去る8月11日には、記念すべき第1回「山の日」記念大会が当地区、上高地で開催されました。長野県の大変な肝いりでこのようなことになったのですが、大成功に終了することができました。御協力に対しても心から感謝を申し上げます。

さて、おいでいただきました安曇地区、奈川地区でございますが、本市の西部に位置しておりまして、面積は約520km<sup>2</sup>、市域の半分以上を占める一方で、人口は2,400人と、総人口の1%という状況でございます。ではあります、安曇地区は御存じの天下の名所、上高地を擁しておりますし、また一方で、奈川は日本の田舎の原風景をとどめる、私共にとりまして、両地区とも我々松本市の宝でございます。

平成17年4月1日に、両地区は、松本市に合併しました。これまでそれぞれの地区で培われてまいりました伝統や文化を受け継ぎながら、市政の均衡ある発展と早期の一体性の醸成を図ってまいりましたが、中山間地に共通する課題として人口減少、少子化、高齢化が顕著になっておりまして、今後どのように地区の振興に力を入れ、維持していくか、大きな課題となっております。本市におきましては、こうした数多の課題に対応するために、各地区に地域づくりセンターを設置しまして、地域の人材を生かして、地域が自立して様々な取組を始めております。

本日の意見交換会では、このような中で地域のために大変活躍をされている皆さんの活動内容について御発表、御意見をいただきたいと思っておりますので、どうか議員の皆様方におかれましては幅広い見地から助言を賜り、今後の活動に生かしていただけたらと御期待を申し上げるところでございます。

行政の立場から一つだけ加えますと、今日お通りいただいた道路が御存じの中部縦貫道及び国道158号の整備ということで国や県にお願いをしている幹線道路でございますが、ようやくいよいよこの11月の近くに奈川渡トンネルというところが着工することになりました。これも皆様方の御尽力のたまものと心から感謝を申し上げますが、このほかにも上高地に係る特有な問題、あるいは山岳観光施設等の課題も山積しておりますので、どうぞ県政の場でまた御指導、御協力くださいますようお願い申し上げます。

結びになりますが、本日の会が実りある会になりますことを御期待申し上げ、県議会議員の皆様方の御健勝、さらに御活躍を御祈念申し上げまして、松本市を代表してのあいさつに代えたいと思います。ありがとうございます。

(下沢副議長)

ありがとうございました。

それでは、本日の出席議員から自己紹介をさせていただきます。

宮本議員から名簿順にお願いいたします。

(宮本衡司議員)

こんにちは。議会広報委員会の副委員長を務めております、信州は最北端、飯山市・栄村選挙区選出の宮本衡司であります。よろしくお願いいたします。

(荒井武志議員)

広報委員を務めております千曲市・埴科郡区選出の荒井武志でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(小川修一議員)

皆さんこんにちは。小川修一と申します。私も広報委員でございます。荒井議員と同じく、千曲市・埴科郡の選出でございます。本日はよろしくお願いいたします。

(和田明子議員)

皆さんこんにちは。同じく広報委員の和田明子です。長野市区選出です。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

(清沢英男議員)

地元ということで、旧奈川村の隣村の朝日村の清沢英男であります。

申しわけないけれども最初に謝っておきますが、今日は生坂、麻績、筑北、3村の議員大会がありまして、そこに来て講話をするようにと言われておりますので、途中で退席させていただきますが、よろしくお願いいたします。勘弁してください。

(備前光正議員)

皆さんこんにちは。お隣になります塩尻市選出の備前光正と申します。今日はよろしくお願いいたします。

(両角友成議員)

地元選出、松本市区選出の両角友成です。どうぞよろしくお願いいたします。

(中川宏昌議員)

同じく地元、松本市選出の中川宏昌でございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

(寺沢功希議員)

こんにちは。隣の安曇野市選出の寺沢功希でございます。本日はお世話になります。よろしくお願いいたします。

(丸山大輔議員)

塩尻市の丸山大輔でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(百瀬智之議員)

松本市選出の百瀬智之です。よろしくお願いいたします。

(下沢副議長)

ありがとうございました。

なお、松本市の皆様方につきましては、恐れ入りますが、お手元の出席者名簿の配付により御紹介に代

えさせていただきますと存じます。

本日の「こんにちは県議会です」は、この松本市という、あるいはこの長野県の中の都市部の中の「中山間地域の活性化について」をテーマに、日ごろ松本市安曇・奈川地域で活動に取り組む方々からの取組事例の発表や、意見交換を行うことで地域の課題を把握し、今後の議会活動に生かしていくとともに、県議会を身近に感じていただきたいという趣旨で開催いたしました。

なお、広く県民に広報するため、本日の概要につきましては、発言内容及び映像を、後日県議会のホームページに掲載させていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、まず本日の開催地であります松本市安曇地区及び奈川地区のそれぞれの地区町会連合会長様に、地域の概要について紹介をいただきたいと思います。

まず、安曇地区町会連合会長の伴野英男様、お願いいたします。

## ○地域の概要紹介

(安曇地区町会連合会長)

皆さん、どうもこんにちは。遠いところからおいでいただきまして、大変ありがとうございます。ただいま御紹介いただきました安曇地区町会連合会長の伴野英男と申します。

安曇地区の概要についてお話をさせていただきます。

安曇地区は、松本市の西部に位置し、岐阜県の奥飛騨地方に接しており、南北32km、東西22kmのほぼ台形をなし、面積は401.5km<sup>2</sup>で、全市の大体4割を占めています。地勢は、地区全体を槍ヶ岳、穂高連峰、乗鞍岳の3,000m級の山岳とその他の山に囲まれています。

安曇地区には、国道158号を中心に、縦に長く7町会が分散し、距離的にも離れているため、分権型に近い自治が育まれてきました。

安曇地区は、明治7年9月10日、当時の4カ村が合併して安曇村となり、その後、平成17年4月1日に松本市へ編入合併しました。当時の旧安曇村は、林業と養蚕を主な生業としてきましたが、大正14年ごろから梓川を利用した発電所の建設が相次ぎ、特に昭和44年の梓川筋電源開発による安曇三ダムの建設により、地区内の生活環境が大きく変化しました。幹線道路の整備が進む中、経済成長の波にも乗って、上高地、乗鞍高原、白骨温泉等の観光地が発展してきました。

平成28年4月1日現在の安曇地区の人口は1,629人、世帯数は750世帯となっており、合併時の平成17年4月と比較して、人口で24.4%、世帯数で10.7%の減少となっています。

安曇地区の課題としまして、一つ目は少子高齢化であります。安曇地区にある二つの小中学校児童生徒数は、合併時は166人在籍していましたが、現在は77人の在籍者まで減少し、こうした中で今後の学校のあり方を地域全体で検討する必要があります。また、高齢者の見守り、支える仕組みの構築が必要になっています。

二つ目は、観光客減少による観光産業の低迷が課題として上げられます。ピーク時の平成6年と比較すると、全体で4割減となっており、特に乗鞍高原ではスキー客の減少により6割減少と、観光の衰退による若い人の雇用の場が少なくなり、流出の要因ともなっています。

三つ目は、広域な地域に離れて町会が点在し、生活を委ねる道路は国道、県道が各1本で迂回路がない状況の中で、ひとたび災害が発生すれば各地区が孤立する危険が大きく、災害に弱い当地域での防災対策の充実が課題として上げられます。

町会連合会としましても、各地区の課題を共有し、行政と連携しながら、地域課題の解決に向けた取組を行う必要性を感じています。以上でございます。

(下沢副議長)

ありがとうございます。

次に、奈川地区町会連合会長の奥原仁作様、お願いいたします。

(奈川地区町会連合会長)

皆さんこんにちは。御紹介いただきました奈川地区町会連合会長の奥原仁作と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは私の方から、事前にお配りしました資料に基づきまして、奈川地区の概要を説明させていただきます。

奈川地域は、松本市の更にまた西の外れに位置しておりまして、岐阜県の高山市、それから木曾郡と接しております。周囲を2,000m以上の山に囲まれた面積117km<sup>2</sup>、林野率が95%を超える純山村でございます。奈川渡ダムで梓川に交わる1級河川、奈川に沿って14の集落が点在しております。本年4月1日現在の人口は760人、世帯数は345となっております。ただ、昨年10月の国勢調査の速報値を見ますと、実際には680人となっております。登録人口と、それから生活実態人口との差がございます。合併時には約1,000人あった人口ですが、合併以降、松本市は定住ですとか、あるいはIターン、Uターンのための様々な施策を講じていただきましたけれども、人口減に歯止めをかけるということはできていない状況でございます。私はある面、歴史の必然であるというようなことも考えておりますけれども、このままでは更に減り続けるということが危惧されます。

明治まで、奈川は松本藩ではなくて木曾山村家を通じて尾張名古屋藩に属しておりました。江戸時代には牛を使った物流で栄えた時期もありましたが、昭和30年代まで林業を主な稼業とした地域でございました。その後、梓川電源開発を機に、土木建設業と自然環境を生かした観光関連産業で、この山間地でも隆盛を極めた時期もございました。木曾郡から昭和23年に南安曇郡に編入、そして平成17年に松本市に合併をしたところでございます。

社会環境の変化もあり、変遷もありまして、全国の山間地域の多くが同様な悩みを抱えておりますように、当地域も公共事業の縮小や観光事業の低迷、生産性の低い農業、森林資源活用の限界など、地域資源を生かして生計を立てていく手段に乏しく、若者の地域離れやせっかくIターン、Uターンしても、また離れていってしまうといった現状もございます。

さて、こういった中での課題でございますが、六つほど列挙してございますけれども、個々の課題を上げるとしましたら、記載のとおりのような課題に分けられると思います。これらを集約いたしますと、要

諦は人口が漸減して600人台となり、しかも高齢者がその半数に及ぶ山間地で、今、暮らしている人たちがこの地で暮らすことをよしとし、ここに暮らしてよかったと人生を全うできるかどうかということだというふうに思います。そのために、行政が、また地域の人たちが何を目標とし何を求めていくか、個々の課題を解決しつつ、小さくてもきらりと輝く地域づくりに取り組んでいかなければならないと考えております。

最後に、建設事業の恒常的確保というのがあるのですが、これはハード的な話なのですが、最近公共事業が非常に減ってまいりまして、建設産業も非常に厳しくなっております。そうしますと、実はこれ、冬の除雪に非常に困るわけですね。建設会社がいなくなりますと、いわゆるライフラインの除雪ができないということが大きな課題にもなってきますし、また不時の自然災害が発生した場合に、速やかに対応できる体制がとれないということもありますので、どうしようかと思ったのですが、これも非常に大きな課題ではないかと考えてございます。

以上でございます。ありがとうございました。

#### ○取組事例発表

(下沢副議長)

ありがとうございました。

それでは、本日御参加いただきました皆様の中から、5名の方に取組事例を発表していただきたいと思っております。地域の活性化に向けて、現在の活動状況、工夫していることや今後どうしていくかなどをお話しいただければと思っております。

進行の都合上、恐れ入りますが、お一人様4分程度まででお願いいたします。

まず、NPO法人梓川流域を守る会理事長、奥原将弘様、お願いいたします。

(梓川流域を守る会理事長)

こんにちは。NPO法人梓川流域を守る会の奥原将弘と申します。よろしく申し上げます。

私たちのグループは、平成18年に安曇地区と奈川地区の住民と事業所等で作るNPO法人梓川流域を守る会を設立しました。当時、松本市との合併を控えて、西部山沿い地域の安全な生活と日本有数の観光地に来訪するお客さんの安全を守りたいとの多くの住民の声に、当時の町会長さんたちが中心となり、国交省松本砂防事務所及び砂防フロンティア整備機構の森理事長のお力添えによって平成18年6月に設立し、そのときの会員及び賛助会員約300名でスタートをいたしました。現在、会員数は少子高齢化によって250名弱となりましたが、創立から10年目の節目を迎え、さらなる近隣の住民の安全・安心をもたらす活動に従事していきたいと思っております。

私どもの中心母体は、砂防フロンティア整備機構内にある砂防ボランティア全国連絡協議会で、全国で72の団体があります。その中で、私たちのNPOはトップテンに入る活動をしております。そのほかに、主な所属団体は全国治水砂防協会、長野県治水砂防協会、信濃川・姫川水系砂防工事促進期成同盟会、中部縦貫道建設・国道158号整備促進期成同盟会、国道158号の改良を促進する沿線住民の会など、地域はも



ちろん長野県全土の治水、防災、道路に関わる災害を未然に防ぐ応援団として、各行政機関に要望書などを提出してお願いをしております。

また、地域での活動は、砂防施設・河川・道路等の状況調査、広報紙、これは議員の皆さんのところに広報紙を置いてあります。広報紙によって災害に対する啓発活動、河川の支障木等除去作業の実施、その他関連団体との交流、砂防先進地への視察活動を行い、災害に強い住みよい郷土づくりに地域を挙げて取り組んでおります。

近年、台風の強大化、ゲリラ豪雨の増大、地震などの自然災害の規模が大きくなっています。この地域は山岳道路が多く、災害によりたびたび通行止めが発生しています。平成23年6月には、国道158号ワラビ沢、上高地公園線産屋沢の土砂災害によって、観光客、また従業員1,200人が上高地に取り残されました。平成25年5月には、岐阜県の新穂高温泉を震源とする地震があり、県道奈川木祖線で通行止めがありました。平成26年2月、県中部を襲った豪雪ですね、雪がたくさん降って、国道158号沿線の雪崩による通行止めもありました。

ここ数年は、幸いにして穏やかな年となっています。しかし、私たちの地域は山岳地域であります。常に土砂災害に向き合いながら暮らしており、溪谷沿いに点在する集落で生活しております。また、焼岳、乗鞍岳の火山の調査活動、治水・治山等の防災事業、国道、県道の道路防災事業など、各種の調査、進言をしてまいります。これからも防災事業の要望活動など積極的に続けていきたいと考えております。

それと、住民の災害に対する啓発活動として、アルプス公園にある「山と自然博物館」内に、国土交通省松本砂防事務所の砂防学習館がありますが、昨年からは、今は日曜日と祭日だけですけれども、そこに訪れた人たちに災害の恐ろしさ、それと日常生活の中でどう取り組んでいったらいいのか、また砂防施設がどんなに大切なものかということ、館内に来た人たちに1人でも多く伝えていこうとして、会員が交代で行っています。また、その他に、県内の北信、南信地域に私たちと同様のNPO団体を推進する活動もしています。

最後に、今後、長野県としても、災害防止のために活動する私たちのようなNPO団体に、ぜひ支援をよろしくお願ひしたいと思ひます。

大勢の中で少し上がってしまひまして、誠に失礼をいたしまひました。終わります。

(下沢副議長)

ありがとうございます。

続いて、さとやまエネルギー株式会社社長、前田仁様、お願ひいたします。

(さとやまエネルギー株式会社社長)

皆さんこんにちは。前田と申します。よろしくお願ひいたします。

まず、今日はお手元の資料をもとに、私たちの活動の御紹介をさせていただこうと思ひます。

私自身もちょっと自己紹介させていただければと思ひますが、この稲核という地区で生まれ育って、3

年前に戻ってきました。もともとはプラントの設計会社におりまして、主に中東のお客さん向けに石油プラントとか火力発電所とか、そういった石油化学プラント等を設計するという仕事をしていました。そういう中で、自分たちの仕事って、海外のエンジニアとよく話すようになったのですけれども、働けば働くほど環境を汚染して、大きなオイル会社さんはもうかるけれども、地域はどんどん疲弊するという、中東でも同じような状況で、それって意味ない仕事だよねという話が結構出てきて、自分も仕事に関して悩みながら取り組むようになった中で、イラン人の知人のエンジニアに再生可能エネルギーというのがすごく熱いんだよと教えていただいて、それで再生可能エネルギーというのを調べるようになったというのが、そういうことをちょっとやってみたいというきっかけになります。

そのような中で、特に地域と一緒にとか、地域の事業者が主体となって再生可能エネルギーという小さなエネルギー事業がどんどん立ち上がっているというのが世界の流れで、主流になりつつあるということを知りまして、であれば自分もそういうことがこの地元でできるんじゃないかと思ひまして、この地元に戻ってきました。それがこの会社を立ち上げたきっかけになります。

現在は、約700キロワット程度の水力発電事業というのをこの奈川地区と安曇地区でそれぞれ計画させていただいております、今、奈川地区のほうは県の河川課、砂防課に河川協議、砂防協議に通っている状況になります。

自分たちの特徴としては、大体この規模の水力発電所ですと、開発調査、資金調達、工事に入るまでで約8,000万円程度かかると言われているのですけれども、もちろんそんなお金はないので、ほとんどの仕事というのは自分たちでやって、どうしてもできないところだけ専門家をお願いするというような形でコストを圧縮しながら、時間はかかるのですけれども、一步一步進んでいるというのが今の状況になります。

次に、チャレンジできる環境ということをちょっと述べさせていただいているのですけれども、こういうエネルギー事業というのは、特に民間会社では業界としても立ち上がってまだ間もないような業界なので、わからないことが多くて、全てを知っているという人は誰もいません。そういう中で私たちは、ここに来ていただいている地域の連合町会長さんや各町会長さん、地域づくりセンター長や公民館長、松本市の環境政策課の方や、あと特に長野県環境エネルギー課新エネルギー係の皆さんに非常にいろいろなサポートをしていただきながら、一步一步わからないなりに進んでいるという状況になります。

今回の我々の事業というのも、県の地域発電推進事業という補助事業を、これは返す補助金になるのですけれども、使わせていただきながら調査設計を進めさせていただいておりますので、非常にありがたいと思っております。長野県はこの自然エネルギー業界で非常に有名な県でして、東京都と福島に並ぶ先進的な政策を取り入れているという県です。私も起業前に、どこで起業したほうがいいのか悩んだときに、長野県の政策というのは起業に対して一つ大きなきっかけになるようなものでしたので、そういう政策を進めていただいているということは非常にありがたいと思っております。ありがとうございます。

具体的に奈川での事業に関してもう少し御説明したいと思うのですけれども、地域の資源を使わせていただくということで、どういうふうに地域に貢献すべきなのかを、地域づくりセンター長や公民館長ともいろいろと御相談させていただきまして、そういう中で、農業の振興というのが一つ大きな課題とお

聞きしていましたので、今回この奈川での事業に関して、グリーンコープという、本店は福岡にあるのですが、西日本をカバーする、約500億円の売り上げがある大きな生協に声をかけさせていただきました。共同の事業主として入っていただくかわりに、奈川地域の農作物のブランディングですとか販売チャネルの確保とか、そういうこともやっていただけませんかみたいな話でちょっと声をかけさせていただきました。それで、実際に福岡から結構奈川地域に足を運んでいただいて、小林センター長ですとか、今日発表される一志さんの話とかもお聞きしながら、非常に奈川地域の可能性というのを感じられておまして、ぜひ一緒にやりたいというようなことをおっしゃっていただきました。そういったエネルギー事業そのものでは、なかなか地域にすぐに貢献できるということは難しいということも感じてはいるのですけれども、いろいろな仲間を増やすことで、少しずつ地域に貢献できる事業ができればいいなというふうに思っております。

ただ、現状は本当にまだ何もできていなくて、ただひたすら朝から晩まで設計とか許認可の仕事をしているという段階なので、ちょっとこの場に立たせていただくのも恐縮だったのですけれども、我々の大きな目標として未来にはそういうような事業ができるように、一步一步成長できればと思っています。

以上になります。ありがとうございます。

(下沢副議長)

ありがとうございました。

次に、奈川地区金原町会長、奥原二美人様、お願いいたします。

(奈川地区金原町会長)

皆様こんにちは。ただいま御紹介いただきました、金原町会長であり、奈川地区の町会連合会の副会長をやらせていただいています奥原二美人と申します。よろしくお願ひいたします。

県議会議員の皆様方には、常日ごろ長野県行政に御尽力いただき、私たち県民が安心・安全に生活できる環境を築いていただいていることに感謝申し上げます。

本日は、奈川地区町会連合会から森林整備事業について御提言させていただきます。

私たちが生活している奈川地区の森林面積は、先ほども会長の方からお話がありましたけれども、95%を占めております。特に戦後、拡大造林施策のもと植えられたカラマツが大半を占め、森林のうち70%ほどとなっております。そんなカラマツも利用期を迎えています、建築材への利用は不向きとされ、ほとんどが合板への利用となっており、奈川地区から毎日のように大型トレーラーで石川県の合板工場のほうに運搬されております。

また、木材価格の低迷などにより森林への関心が薄れ、手入れされていない山林が増加し、荒廃化が進み、猿やイノシシなど、けもの巣となっているような場所が農地のすぐ近くにあるため、鳥獣による農作物の被害は年々増加の一途をたどっております。一部の地域では、補助事業を活用して電気防護柵を設置している町会もありますが、担い手のいない町会や高齢者の多い町会ではこの事業を取り入れることもできません。結果、生きがいである農業への意欲もなくなり、農地の荒廃化も進行しています。

また、さきに長野県が土砂災害防止法に基づき指定した奈川地区の地すべり警戒区域では、約280ヘクタールが指定され、住民生活へも不安があります。急傾斜地の多い奈川地区では、森林整備による森林機能の維持強化が必要と考えます。

そこで、地区に住む住民が安心して健康のために好きな農作業を行うと同時に、奈川地区の景観を守り、森林の機能を維持し活用していくために、次のことを提言いたします。

昔は、農地の周りには家畜の餌や畑に入れるための広い草刈り場があり、さらにその上部の山は広葉樹林がほとんどで、動物などの食べる木の実などが豊富にあり、人間と動物のすみ分けができていたように思います。私の若いころは、畑などで猿やイノシシなどの姿を見たことがありませんでした。そのために、もう一度山を昔の状態に戻す必要があると私は考えます。時間はかかりますが、人工林を広葉樹林に戻すことと、農地と山林の間は30メートルくらいの緩衝帯となる完全な草地にすることに對し、森林税の活用を提言いたします。

近年、薪ストーブへの関心が高まり、導入されている方が増えておりますが、同時に、薪を調達することが課題とお聞きしております。奈川地区内には広葉樹も多く、薪としての利用価値の高いナラなどもあります。公共施設への暖房や公衆浴場への薪ボイラーの導入などによる需要が見込めます。また、薪ストーブの推進を図ることにより、環境への負荷の低減や地域内の循環型エネルギーの活用にもなります。地域の元気なお年寄りを募り、薪ステーションの設置など、新たな雇用の創出にもつながります。人が入らなくなった山を広葉樹林へと整備することにより、動物がすみやすくなるばかりでなく、山菜やキノコなどが豊富にとれるようになって、地区住民の収入源にもなります。また、広葉樹林の整備は、災害に強い山づくりにもつながります。

このような山村資源を活用する仕組みづくりと、地域の元気な高齢者が働ける場の確保が必要と考えます。これらの事業へも森林税を活用した取組ができないかなど、中山間地域への支援策の御検討をお願いいたします。どうかこの提言が実現できますようによろしくお願い申し上げまして、私の提言を終わります。

(下沢副議長)

ありがとうございました。

続きまして、奈川振興公社事務局長、一志千春様、お願いいたします。

(奈川振興公社事務局長)

皆さんこんにちは。奈川の一志です。

本日は、会が始まる前に、信州伝統野菜にも認定されております奈川の特産品、保平蕪を使いました赤カブの甘酢漬けを召し上がっていただきましたけれども、お味はいかがでしたでしょうか。よかったです。おいしいと言っていた今日のカブは、地元のおばあちゃんにお願いして、このような会に出るので皆さんに食べていただきたいということで用意していただきました。皆さんにおいしいと言っていたことをそのおばあちゃんに伝えたいと思います。

私はこんなふうに地元の「おいしい」を皆さんに届ける、そして皆さんに喜んでいただいたのを地元の方にお伝えして、地元の皆さんが農業を通して元気になっていただくようなことをしていきたいということで活動しております。そんな中での気が付いたことを今日はちょっとお話をしたいと思いますので、よろしく願いいたします。

松本市でも特に中山間地域に位置する奈川・安曇地域は、昼夜の寒暖差を活用したソバや花豆など、高冷地特有の農産物を生産しておりますが、霜の被害や急傾斜地も多いことで本当に草刈りなどが大変で、厳しい条件のもと、農家は並々ならぬ努力をしながら農地を守っております。

本地は奥地であるため、他の地域との交流も少なく、古くから地域で栽培されてきた伝統野菜や在来種が残っており、奈川地区では保平蕪、乗鞍地区では番所きゅうり、そして稲核地区では稲核菜がそれぞれ信州の伝統野菜に認定されているほか、ソバも奈川在来、番所在来など、古くから地域で栽培されてきた希少なソバがあります。近年、こうした古くから地域で栽培されてきた在来種に関心が高まっており、これらを活用して地域の人、歴史、文化、食を組み合わせることは地域振興につながると考えております。

現在、奈川地区では食材のブランド化に取り組んでおりまして、地域で古くから栽培されてきましたエゴマを活用したエゴマ油や、またソバや赤カブを活用した特産品づくりに取り組んでおります。近年、健康志向が高まる中で、抗酸化力の高いエゴマの油は大変人気がありまして、製造が追いついていないのが現状です。

私は、振興公社の事務局長として、また地域のコーディネーターとして、地域の人と物をつなげる役目をしておりますが、地域の高齢者が増加する中、栽培技術を伝える仕組みも必要と考えております。奈川などの高冷地でなければ栽培が難しい、私たち通常は花豆と呼んでおりますが、ベニバナインゲンなどは背が高くなるものですから支柱を立てる必要があります。その支柱を立てるという作業は本当に大変なことで、高齢者には負担も多いことから、年々生産量が減っているのが現状です。これら高冷地特有の伝統野菜、在来種を守り続けるためには、JAとの協力関係はもちろんですが、農業の専門家による技術指導が必要だと考えております。

松本市と合併して12年を経過する中、住民の生活は旧市と同様のサービスを受けられるようになりましたが、そこに住んでいる人たちが農業にかかわっているというその生活は変わっておりません。その地域の特色を生かして作り続けられるものをさらにしっかり掘り起こすこと、作り続けていくことが必要だと考えております。

村の時代には、出先機関である地方事務所の農政課や農業改良普及センターとの交流があり、県の職員が町村へ派遣されて人事交流を行うなど、県と村と農家が一体となって地域文化を学びながら農業振興を進めてきたということを聞いております。また、他県では、中山間地域に的を絞って地域研究がなされていることもあるということを耳にしました。今、先ほどさやまエネルギーの前田さんからも話がありましたが、グリーンコープとあって、外の方が本当に奈川の農産物にとっても注目をしてくださっています。そんなせっかく注目をいただいているので、しっかり作り続けていきたいということもありまして、ぜひ県と市が協力して、県の農作物の栽培に技術がある方、知識のある方をこういう地域に派遣していただいて、農作物をよりよく安定的につくっていただける仕組みをつくることができないか、そんなことに御協力

をいただけないかということで、今日はお願いでお話をさせていただきました。以上です。

(下沢副議長)

ありがとうございます。

続きまして、ばんどこファーム実行委員会代表、中原由紀子様、お願いいたします。

(ばんどこファーム実行委員会代表)

こんにちは。私は乗鞍高原に住んでおります中原と申します。よろしくお願いいたします。

今日は、お手元にちょっとかわいいパンフレットを置かせていただきました。ばんどこファーム実行委員会として来ておりますが、私自身も小さな宿を経営しております。そんな感じで観光に関するもお話しさせていただければと思っております。

もともと私、神奈川県で三十ウン年前に初めて乗鞍高原のスキー場にスキーに参りまして、それで気に入りまして、毎月のように通っているうちにここに住みたくなって、春夏秋冬大好きな乗鞍高原なんですが、そのころは非常に活気がありました。三十ウン年前はそうでもないですね。その後、がーっと活気が出てきて、それから、私たちが宿を始めたころからどんどん衰退して、先ほども乗鞍だけ特別な数字が発表されましたが、ほかは100から60になったのに、乗鞍は40になっているという、初めて知ったような数字で愕然といたしました。それを裏付けるようなことを目の当たりにしてきております。

そんな中で、松本市の前の安曇村時代に、いがやスキー場がありました。ここはとてもコンパクトな優しいスキー場で、ファミリーの方とかファンの方がたくさんいらっしゃる、にぎやかなんですが、かちやかちやにぎやかじゃなくて、ほのぼののにぎやかなスキー場だったんですね。そこが合併して松本市営になって、その後、指定管理の方にやっていただいたあたりからちょっと世間的にもスキーヤーが減って、その会社も大変になって、ついに2013年ころにやめることになってしまって、私や、このばんどこファーム実行委員会のメンバーは、実はそのスキー場のふもとに住んでいる者たちなんですね。その者たち、旅館とか民宿とかペンションとか、あるいはレストランのおかみさんがよく集まるとは、お茶会と称してその地域のことを話し合っていたんですが、だんだん寂しくなってしまうスキー場エリアを何とかしなきゃねとお話ししながら、いい知恵が浮かばない中、やはり同じ地域で男性のチームもありまして、男性のいがやを考える会というところの人たちがヤギを飼い始めました。それは、終わってしまったスキー場の景観をきれいに保つために、人も草刈りをするのですが、ヤギにも食べてもらおうということで、ヤギを飼い出してくださり、それを求めて、全くPRもコマーシャルもしていないのですが、いろいろなお客様がヤギを見に来てくださるようになりました。

そんな風景を見て、これはのどかになってしまった、でも、なってくれたスキー場跡地とこの動物の関係で、何かほのぼのとした地域をつくることでまた活気が呼び戻せるのではないかというようなことになりまして、それで実は長野県の元気づくり支援金の方に申請させていただきました。それが一昨年で、今年で2年目が終わろうとしていますが、採択をいただきまして、たくさんのお金を補助していただいて、少しずつですが活気を取り戻しつつあるかと思えます。スイーツを開発させてもらったり、それから補助

金をいただいたそれをもとにソフトクリームを、これもとても評判で、ヤギのミルクのソフトクリームは牛乳に比べますとすごくさっぱりしているんですね。スイーツもそうなのですが、ですので、そのために来てくださるお客様も少しずつですが増えてきました。

でも、実は私たちのおかみさんグループは本業がありまして、その経営のほうに一日中いられないのですね。そうすると、人手がなくて、今一番困っているところなのです。実は、Iターンで来てくださった若者が1人経営をしてくれています、やはり外からの方なので、その方たちにはお給料といいますかね、お支払いをしなきゃいけない、でもまだ経営はそこまで順調になっていないというところで、松本市の方に地域おこし協力隊とか、それから松本大学の卒業生のIターンシップなんかもお願いしておりますが、まずこの人件費、あるいは人手の問題が一つ大きな問題として私たちにのしかかっております。

もう一つ、これもとてもうれしいことなのですが、松本市が平成30年5月のオープンを目指して、このいがやスキー場の上部のエリアに「いがやレクリエーションランド」というのがありますが、ここを大リニューアル改装してオープンしてくれることになりました。とても期待しているのですが、この今、スキー場のスロープを挟んで上と下がちょっと時間差で開発というか運営されるようになるので、私たちはぜひこの地域が一つのいがやエリアとして内外にPRしていただければ、あるいはお客様から見ると一つの場所に見えるような形でPRしていただければうれしいなと思います。私たちも本当に小さな六、七人での、おまけにおかみさんたちがやっている組織なのですが、地域愛といいますか、特にこのばんどこ地域を愛する気持ちはすごく大きいんですね。なので、子供たちにつながっていけるようなばんどこ地域、ひいてはそれが乗鞍高原全体に行くような活気を戻したいなという夢を持っております。

今日は県の方がいらっしゃるので、この観光全体を考えますと、乗鞍高原は40になっちゃっているのですが、マスコミの方なんかとお話をすると、やはりアクセスがその数字を減らす、あるいは他のところは持ち直しているのに、なかなかそこがうまくいかない原因の一つとしてアクセスがあるんじゃないかということで、実は最後のトンネルを出た県道で土砂崩れというか、岩石崩れが起きました。それで、今日そこを通ってきましたが、蛇かごというんですかね、そこに大きな岩がいっぱい、だんだんだんって、もう膨らんであるままなんです。何か通るたびにいつ崩れるかなと、よけながら走ってくるような状況が続いています。その崖崩れが道路表示では一部通行止めという形で表示されているので、確かに一部通行止めで一方通行になっているのですけれども、やはりお客様からすると、何か大丈夫かしら、行けるかしらというような状況だそうです。わざわざその県道84号線を通らずに、奈川の方から回っていらっしゃるお客様もいるくらいなんです。やはりとても遠回りになってしまうので不利ですし、やっぱりそういう崩れているところがあるというのは、もうイメージとして、やめておこうとか、冬はやめようとかということにもなりかねないので、お願いしたいと思います。

もう一つ言わせてください。県道はエコーラインを越して乗鞍岳、豊平を通って高山側のスカイラインに行きます。その岐阜県と長野県の県境が豊平にあるんですけれども、そこで観光客時代も感じたことなんです、はっ、この辺に何か走っているみたいという、不思議な思いがします。県と県の何か思惑のぶつかり合い、ちょっと言い過ぎかもしれないのですが、何となくそんなことをお客様も感じている線がありますので、何か県同士が仲良くなったらうれしいなと思います。乗鞍岳を生かさせていただいて、両県

が観光にも頑張っている地域ですので、乗鞍岳、両方が大事にしたい、そんな気持ちでおります。よろしくお願ひいたします。

## ○意見交換

(下沢副議長)

ありがとうございました。

それでは、ただいま御発表いただきました内容も参考にしながら意見交換を始めたいと思います。なお、本日、御意見は議会活動としてお聞きするものでありますが、それぞれ内容に係る所管機関・部局がありまして、必ずしも議会としてこの場でお答えできないというものもあるかもしれませんが、その点につきましてはあらかじめ御容赦いただきたいと思います。

また、今後の議会活動の中で共有し、県政課題への取組に生かしていくために、議員の方から参加者の皆様に詳しくお話をお聞きする場合があります。よろしくお願ひいたします。

参加者の皆様には、発表に関連する御意見及び中山間地域の活性化に関する他のことでも結構ですので、自由に御発言いただきたいと思います。せっかくの機会ですから、多くの皆様から御発言をお願ひいたします。

なお、恐れ入りますが、発言される方は挙手をいただきまして、マイクをお持ちいたします。お名前をおっしゃってから御発言いただくようお願いしたいと思います。

それでは、御発言のある方からぜひよろしくお願ひいたします。今、御説明いただいたものの補足でも結構ですし、議員のほうから質問でも結構です。

どうぞ、小日向さん。

(松本市アルプス観光協会長)

どうもこんにちは。松本市アルプス観光協会、小日向義夫と申します。よろしくお願ひいたします。

観光協会ですので、観光に限ってちょっと感じていることをお話ししたいと思います。

日ごろは県政と地元のパイプ役、またお目付役、ありがたく、いろいろと協力いただきまして大変感謝しておるところでございます。

さて、観光につきましては、20世紀のころから、国の基幹産業だと言われて久しいのでありますが、なかなか商工業の陰に隠れてうまくいっていませんでした。今世紀に入りまして、国も観光庁もできまして、県も部をつくりまして、そして市の方も観光に力を入れていただいて、本当にありがたいと思っております。

今、一、二年くらい前からDMOというものが、もう御存じだと思いますけれども、言われており、私どももそのDMO取得の候補法人に一応なっておりますが、はっきり言ってよくわかりません。県の方も今年から年6回くらいの講座で、部長・課長、部課長がほとんど横断的に出てきてやっているようです。ただそれぞれのDMOの参加者を2名に絞っているものですから、長野県では七つか八つ候補があるのですが、もう少し参加させていただけたら、興が乗れば知事も出てくるということでございますので、こん



な部長、課長が全部そろった会議というのはあまりないと思います。そんなことを感じましたし、私、村井さんのころ観光審議委員をしており、一昨年の質疑のまとめを見たのですが、言葉は新しい言葉になっていますが、根底はあまり変わっていないのじゃないかな。やっぱり本当の根底をやることが一番大事だなと、そんなふうに感じております。表現の横文字のファッションじゃなくて、本当に根本から昔から言われていることをもう一度見つめ直して、そしてやはり地域づくりというのは、つまるところは人づくりだと私は思っています。そんなことを申し上げたいと思います。

(下沢副議長)

ありがとうございます。

議員のほうから、今の御意見いかがですか。荒井さんどうですか。

(荒井武志議員)

私、荒井ですが、環境産業観光委員会ということで所属しております。

今、とりわけ観光ということでございまして、観光のDMOに関しましては、長野県観光機構がこの7月からでしたか、DMOに移行してということで、まだちょっと緒についたばかりということもございまして。今、勉強会といえますか、講座も御参画いただいておられるわけでありまして、ぜひ引き続きしっかりといろいろな意見交換をしながら高めていただければと思います。

2名しか参加できないということについては、ちょっと私も具体的な数字を承知しておりませんでした。また観光部の方とも連絡をとらせていただきまして、その辺については相談をさせていただこうと思っております。

それから、根底は変わっていないと、最終的には人づくりじゃないかというようなお話も今ございましたが、まさに観光としてお見えいただく方は、自然の風景とかそういうものだけで癒される方もおられると思うのですが、やはりそこには人と人との接する中で、何かほのぼのとしたものが生まれて、それを大事にして再訪いただく、改めてまたおいでいただくと、そういうような取組が当然必要だろうというふうに思っております。そんな点も含めて、これからの長野県観光につきましても今の御指摘を大事にしながらやってまいりたいと。東京オリンピックを迎えるに当たっては、おもてなしということがございましたが、それをやっぱりみずから表に出していくにはどうしたらいいのかという、やはりおもてなしが言葉だけではなくて態度であるとか、それから地域の風情をどうやってよくしていくとか、そういうところにもあると思いますので、そんなことと絡めて人づくりもやらなければいけないのかなと思っております。

ちょっとお答えになっていない部分もあろうかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

(下沢副議長)

今年の委員の両角さん、いかがですか。

(両角友成議員)

今、荒井さんの答弁といいますか、発言で尽きているわけですが、私も、松本市出身ですので、松本に  
関係する部分を特に観光という点では非常に感じておりまして、例えば国際空港にするということで、松  
本空港が松本にとっては一つの玄関口で、そこが職員を今度増員して、全体で5人にしていくというよう  
なことで、方向としてどうなっていくのかということをしちんとしていかななくてはいけないなというのが  
1点。

それと、こちらさんもそうなのですが、やっぱり浅間温泉というような大きなところもこれからどうな  
っていくかと。要は、銀行がだめだと言ったら、老舗の旅館なども潰していかななくてはいけないというふ  
うな現実もあった、そういうところが観光というところで私は一番気になっているところですので、この  
辺のことについてもきちんとして取り組んでいかななくてはいけないなと思っております。

さっき荒井さんの方からもあったのですが、部長が6人というところに地域からは2人しか行けないと  
いうような話もございましたので、ここら辺の改善はきちんとしてすぐにも取り組んでまいりたいと思いま  
す。以上です。

(下沢副議長)

ありがとうございます。

昨年、環境産業観光委員会委員長だった宮本副委員長、いかがですか。

(宮本衡司議員)

御指名をいただきました。

先ほど、中原さんですか、ばんどこファーム、ここで県境をもっと活用したらどうかという、活用とい  
うのは隣の県とのいろいろな交流だとか、そこにあるものを生かしたらどうかというようなお話がござい  
ましたね。長野県も従来、観光立県と言われたのが、今度は大風呂敷を広げましてね、観光大県というん  
ですね。本当に大きなエリアで観光というものを考えていこうという、そういうキャッチフレーズな  
のですが、ちょっと私のところで恐縮ですけども、私のところは本当に新潟県の県境なのです。それで、栄  
村というところは、そのちょうど真ん中に苗場山という山があるのですね。栄村の秋山という、本当に  
もう平家の落人が昔いたというところで、そこで苗場山が最近ジオパークに認定されたのですよ。その栄  
村と新潟県の津南町というところですけども、この町と村で、ではこの苗場山周辺のジオパークでこの  
辺を開発しようということで、実は今年、栄村の村長選がありまして、新しく村長になった方が、役場の観  
光課をこの秋山の連絡所へ持っていかせと。要するに、本庁じゃなくて、本当にもう山の中の村の役場のそ  
このところへ観光課を持っていったんですよ。そこで連絡所の所長と観光課長を兼ねて、とにかく秋山、  
津南、苗場山を一緒にしたその辺の地域の観光振興を考えるという、大きな使命を帯びて、今その観光課  
長が山の中に入っているいろいろやっているのですけれどもね。もはや観光振興も、各地域地域の問題じゃな  
くて、やはり広域観光というんですか、そういう見方をしていかないと、これから失った観光客等の確保  
などもなかなか難しいんじゃないですかね。

現実に、私のところに1年半前に北陸新幹線の飯山駅ができました。これはもう本当に飯山だけじゃだめだと。信越9市町村広域連携会議というのをつくりまして、新潟県の妙高市、またあるいは北信だけではなくて、もう全部ひっくるめて、新潟県と長野県の県境を全部集めて広域観光の連携会議をつくったんです。これがなかなか今、功を奏してはいますね、徐々に新幹線の駅の乗降客なども増えてきました。いずれにいたしましても、そういった意味でこれからはもう地域だけではなくて広域的な観光、これをやり進めていく必要があるかなというふうに、ちょっとお答えになっているかどうかわかりませんが、感想を述べさせていただきました。以上であります。

(下沢副議長)

ありがとうございました。

よろしいですか。どうぞ。

(松本市アルプス観光協会長)

すみません、私ばかりしゃべっていて申し訳ないのですが、県も世界に誇れる山岳観光地を謳っております。当然、3,000メートル級の岳を有している松本市を第一の力を入れる地域になろうかと思っておりますので、ぜひとも山の登山道から始まって、登山道というのは本当にどこが管轄しているかわかっていないようでございます。これだけ登山者も多くなっており、また遭難も増えております。安心・安全の面からも、またよろしく力強いお願いをしたいと思いますし、そしてまた市へも県へもお願いですが、松本市の西口、また19号を超えた西はもう山への玄関口だという、そんなようなイメージで町づくり、地域づくりができればいいかなと。一つのことを言えば、旧安曇地区は、野立て看板はもう景観上立てておりません。松本波田地区にはまだまだ散見するわけでございますが、その辺も、個人の自由ということもありますけれども、景観ということ、また観光地であるということをお理解いただきながら、本当に誰が訪れてもいい観光地、住んでもいい観光地、住んでよくないところにはお客は来ないです。そんなような地域づくりをぜひ力強くお願いしたいと思います。ありがとうございます。

(下沢副議長)

ありがとうございます。

中川さん、何かありますか。

(中川宏昌議員)

別の話題でもう少し深くお聞きさせていただきたいと思っております。奈川振興公社の事務局長に、すみません。

本当に古くからこの地域で育ててきたものを今でも継承しているということで、非常に敬意を表したいと思っております。その中で、在来種の活用ということで、先ほど技術者との連携というお話がありました。それで、私どももお聞きした以上、これから地元機関の農政課、農業改良普及センター等にもしっか

りアピールをしていきたいと思うのですが、この連携は、いわゆる先ほど花豆を例に言っていたのですけれども、非常に御高齢の方も栽培するのが難しくなったということで、いわゆる今までの栽培方法ではなくて、新たな栽培方法をつくり出して、この地域で栽培できるようにその技術者に研究をしていただくのか、それともこういった技術者に地元に来ていただいて、こういう栽培を習得していただいて、そこがまたシンクタンクとなって新たに普及していけばいいのか、この辺をお聞きしたいと思っております。

それと、今、長野県も新規就農者ということで非常に力を入れ始めているのですけれども、そういった方へのアピールもしていかないといけないのかなと思ったところなのですが、その辺について御所見あればお聞かせいただきたいと思っております。お願いします。

(下沢副議長)

それでは、お願いいたします。

(奈川振興公社事務局長)

ありがとうございます。

まず、もちろん例えば花豆でしたら、支柱がなくても栽培できるような、そんな技術ができるようになりましたら、こんなにうれしいことはないと考えております。なので、そういったこれまでの栽培方法でよしとするのではなく、また新たなことが開発できる力を貸していただければということと、また実際に中に入って見ていただきたい、まず関わりを持っていただきたいということも考えております。両面から御協力いただければということで考えておりますが、よろしいでしょうか。

(下沢副議長)

いいですか。中川さん。

(中川宏昌議員)

結構です。

(下沢副議長)

両角さん。

(両角友成議員)

最初の挨拶の中で、議長の方から小水力のことも今日はありますよということで話がありましたが、私もずっとこれを追いかけていまして、9月定例会でももう1回一般質問で取り上げて、県が言うには、小水力の設置箇所が県内だけで1,600カ所ぐらいオーケーだろうという、そういうふうなことまで調べたということでありました。多分、前田社長さんも、許認可の問題とか水利権の問題とか、いろいろなことか

なり苦労されているんだろうなと思います。

私の調べでは、栃木県が出しているものがあるのですが、小水力の手引きみたいなのでかなり、まあもちろんご覧になっていると思うのですが、あれを見ると、大体うまくというか、何かひっかかるところは何かなくなっていくのかなというのと、さっき、いがやスキー場の部分でかなりお困りといいますかね、今後どういうふうにしていくんだというようなことでお話があったのですが、例えばあの地域が水力発電で賄われていますというだけで一つ観光のポイントといいますかね、なるような気もいたしますし、ぜひ一生懸命取り組んでいただければと。私もできる限りこのことについて後押ししたいと思います。

あと、新聞等で御存じのように、梓川で小水力をつけたのも松本市内にある会社ですね、それが自費で4,000万円かけてつけましたよね。ああいうところが近くにありますので、ぜひ何かコンタクトをとってやればいいのかと。社長のお話を聞いていて、そこを感じたものですから、発言させてもらいました。以上です。

(下沢副議長)

議員の方からは他に。備前さん、どうぞ。

(備前光正議員)

よろしく願いいたします。

先ほど、豊平からスカイラインということで、多分あれ、2003年ですかね、平成15年だと思いますが、乗鞍山頂まで長野県側からは自家用車が入れなくということで、私も県議になった最初の年だったと思っておるのですが、その一方で、岐阜県側からは車が入ってこられるという状況で、スキー人口などのそういった趣味といいますか、趣向の変化というのはかなり大きいと思うのですが、そういった頂上まで行かれなくなってしまっていることによりまして、やはりこちらまで入ってくる人たちが少なくなっているというような、そんな感じはないのか。

実は私、子供のころからずっと星を見ることを、非常に長野県がそれに対応した、各所で今始まっている事業があるのですが、御存じの方は、例えば阿智村ですよ。スキー場が中京圏と近いこともあることによりまして、6,500人の村のところに年間5万から6万人、夏場ですよ、入ってこられるということで。実はこの乗鞍も、規制が始まる前は、山頂までそういった星を見る人たちが非常に多く来て、そこで実は私も行ったことがあるのですが、夜わざわざエンジンで発電してまで望遠鏡機材を動かすということで、あれはちょっとまずいなというふうに思いましたら、県としても環境を守るという意味で、乗用車、自家用車の乗り入れを止めるということにもなってしまい、それはやはりいたし方ないかなと思っているのですが、現実に地元の皆さんはその辺はどのように思われているのか。

その一方で、実はこの11月の末に、長野県がそういった県内各所にあります天文台とか天文学者の皆さんと、そういうことを趣味として、阿智の取組とか、あるいは大町方面、白馬とか、塩尻でもそういうのを始めようとしているのですが、そんなことで今、多くの県外からのそういった人たちを呼び込もうという動きが、また月末ですね、信州大学で話し合いがされるそうであります。何かそんな点で、地元の

皆さんがお感じになっていること、それからやはり自然を売り込むということでは、私は非常にすばらしい地域であるというふうに思っていますので、そんな点についてのお考えをお聞かせいただきたいと。

それから、もう1点、やはり発電のことで非常にこれから大変な、長野県らしいということで、私ども先般、ここはやはり温泉も多いので、地熱発電をされている大分県の別府の方面へ行ったときに、実は長野県の駒ヶ根の業者もわざわざ向こうまで行って発電しているんですね。こちらもなかなか、そういった意味では温泉の場はあるわけですけども、小水力の発電ということと、それからやはりそういった地熱を活用すること、なおかつ先ほど集落が離れてしまって災害等のときに困るということもやはりそうだと思うのですが、そうすると、私は企業局と言いまして、県のいわゆる発電の業務を行うところを担当している委員会に所属しているのですけれども、充電をして、いつときでもそういう時に電源を供給するような事業に着手されるとか、そういったお考えはないのか、ちょっとその点についてもお聞かせいただきたいと思います。長くなってすみません。

(下沢副議長)

最初に、中原さんの方からですか。

(ばんどこファーム実行委員会代表)

ありがとうございます。

マイカー規制の話で、マイカー規制は多分いまだに賛否両論が地元の正直なところだと思います。私自身、個人的には大賛成なんです。といいますのは、観光客であったこともあり、山登りして、マイカー規制をした瞬間に、例えば葉っぱの表面の色が変わったとか、コマクサが増えたとか、ライチョウは地球的には減っていたのに、もうちょっと長い話ですけども、乗鞍岳では増えているなんていうことを聞いて、自分の考え方は間違っていないんじゃないかと思いつつ、でも、やはりマイカー規制をする前の皆さんお客様の数とか、いろいろな動機の多種多様性というんですかね、それから思うと、非常にお客様の選択肢が減ってしまった。

それで、減ってしまった内容を具体的に言いますと、今、アルピコのバスがシャトルバスで豊平まで上がってくれています。それは大混雑です。お客様はとて来てくださっています。なんですが、年によって、天候によって、上がったりがったりはあるかもしれませんが、とてもドル箱なんて地元は言うくらいなんですけれども、そのお客様たちが、じゃ乗鞍高原にまたおりてきて今度は高原で遊んでくださるかという、なかなかそこまでいかないと。さて次はどこへ行こうという感じで、駐車場で自分の車に乗られて、じゃ次は白馬ねとか、次はどこどこねということが、2度くらい実はアンケートをとったことがあるのですが、やはりちょっとそういう傾向が見えました。それはもちろん私たちのお客様にこんな遊び方もあるんですよという紹介の仕方が足りない、あるいは遊ぼうと思ったら、この木道が壊れているとか、危ないとか、そんなこともあるので、一概にお客様の趣味だけではないとは思いますが、やはりマイカーが行かなくなってしまった弊害はあるのかなと思います。もう一度言いますが、私自身は

大賛成で、とても穏やかな平和な乗鞍岳になったと思うんですね。

先ほど、私の発表の中で最後に言わせていただいた県境、実はちょっと違う意味がありまして、エコーラインとスカイラインは両方とも同時にマイカー規制をして、豊平、これは岐阜県の駐車場ですが、お互いが入っていけるようになっているのですが、例えば開門の時間が違うとか、それから駐車料金が環境税という形で岐阜県だとか、私は両方大好きなのですが、多分そういうことがもとで、県同士の、どういう言葉がふさわしいかわからないのですけれども、仲良くない部分というか、そんなのがどうしてもお客様の目線で感じるんですね。あるいは、私なんかはお客様と一緒に上に上がったときに、車を止める場所でわーっという感じで、「何しに来たの」、「ごみ拾いです」、「ごみ拾いの格好していないじゃない」なんていう、お互いにあるんだと思うんですね。なので、そこを持ちつ持たれつ、あるいはお金はこんなふうに使われているんだよということを聞くことで、長野県側、私たち乗鞍高原側も丹生川の方にありがたいという気持ちも持てると思うし、何か例えば丹生川の方とも私はよく遊ぶとか山歩きするのですが、トイレをたくさんのお金をかけてつくってくださって、でも乗鞍側から、長野県側からは、トイレは使っても何も落とさないとか、でもこれだけのお金がかかっているんだよというようなことを聞くと、どっちもどっちだと思うんですね。なので、お互いに情報を共有したり、それから一緒に何かイベントをやるとか、イベントといいますと、自転車の大会を両側でやっていたり、あるいはマラソン大会、岐阜県側はなくなってしまいましたが、両側でやっていたり、これも一つにしたらすごくすてきなイベントになるんじゃないかなと思うのです。そんなことも含めて、境界線が見えると言ったのは、あっち行くとまずい、こっち来るとまずいみたいな印象があった、そのようなことを先ほどは申し上げさせていただきました。そんなところが地元としての気持ちで、私は乗鞍岳が大好きなので、仲よく使わせてもらいたいと思うんですね。両県でけんかをしていると、爆発するかもしれないと思います。以上でございます。

(下沢副議長)

ありがとうございました。それでは、前田さん、お願いします。

(さとやまエネルギー株式会社社長)

先ほど御質問いただいた件なのですが、ちょっとこれは法律にかかわってきてしまうことなので、現状はバッテリーとかということは基本的にはできない状態にはなってしまいます。具体的に言いますと、電線で停電が起きた場合は、発電事業者側というのは即座に発電所というのは停止しなければいけないとか、そういう状態の中でバッテリーで電気を送るというようなことも今の法律上はちょっとできない状態なのですが、ただやっぱりコンセプトとしては本当にそのとおりだと思いますので、そういうようなことを、災害時に安全・安心なエネルギーを供給できる体制をつくるというのは、まだまだ技術的にもちょっと難しいところなのですが、本当に未来にとっては大事なことだと思います。ありがとうございます。

(下沢副議長)

中原さん、どうぞ。

(ばんどこファーム実行委員会代表)

すみません、天の川のことでもちょっとつけ加えさせてください。

しらすな先生という京都の方の先生が乗鞍高原にいらっしゃって、夜空を見て、「ここは乗鞍高原だけれども、天の川高原って改名したら」なんて言っていたけど、先ほど議員さんがおっしゃっていたように、乗鞍高原も、上に行っても星がすばらしいところ、それは阿智村もそうなのですけれども、信州中がそうだと思うんですね。乗鞍高原もその星をここ3年ほど売り出しました。星の観察と、それから星を写真におさめるというところにごく人気が出ていまして、毎月新月のときにイベントをやっておりまして、どんどん人数が増えております。こんなところも後押ししていただければありがたいと思います。

もう一つ星つながりで、コロナ観測所、こちらは国立のものかと思うのですが、実は古い一番最初の観測所のところに入らせていただいたことがありまして、本当に木づくりの、手でガラガラやってドアをあけたり、何かお風呂のようなこたつのような観測をする場所を見せていただいて、これは歴史的遺産じゃないかななんて感じたことがあったのですが、ぜひ何らかの形で取り壊さずに残していただければありがたいと、これも多分地域の総意だと思います。よろしく願いいたします。

(下沢副議長)

ありがとうございました。どうぞ、理事長。

(梓川流域を守る会理事長)

すみません、ここにもらってあります委員会報告書の中に危機管理委員会というのがありますが、防災関係に対して、災害に備えた訓練とかというちょっとしか載っていないのですけれども、実際はこの地域は、国があつて、中信森林管理署があつて、環境省があつて、市があつて、県があつて、大変入り組んだ地形なんです。松本市も大変その点で苦労しているんじゃないかなという感じがあります。そこで、やはり県が主導権をとって、各省庁と連携し、一体化した防災管理というものをさせていただきたいという感じはあります。

それと、先ほどから観光観光と言っていますが、先ほど乗鞍の方で、高山と安曇の方とは大変違うというような話がありましたけれども、私どもは焼岳があります。焼岳の向こうに新徳高温泉がありますけれども、そこに神通砂防というNPO団体があります。そこと毎年何回かコンタクトをとって、一緒に国へ要望書を持っていったりいろいろして交流を深めています。自分たちの努力、人に頼るんじゃなくて、お互いにやはり相手に行って交流どうですかというような格好でコンタクトをとって行って、いい意見があればそれを市なり県なりへ持って行って調整をしてもらったほうがうまくいくんじゃないかなと思っています。今のところ、うちのほうはその神通砂防、例えば高山市と結構うまくやって、焼岳に関しては共通の要望書を持っていくような格好にしていますので、ぜひそのような格好で、自分たちで探していい方向を見つけて、市なり県なりへ持って行って調整をもらいたい予算をもらったと、こんなような格好にしたほうがいいんじゃないかなという。ぜひ防災に関してもう少し詳しく、どんなことをやっているかという



のは聞かせていただければありがたいと思いますが。

(下沢副議長)

ありがとうございました。

そうしましたら、今年度、危機管理建設委員会、百瀬さんいかがですか。

(百瀬智之議員)

貴重な意見をいただきましてありがとうございます。我々としましても、今いただいた意見をもとに、しっかりと今後もやっていきたいと思っておりますが、さしあたり、例えば今月の初め、危機管理委員会も県外に調査に参りまして、長崎県の雲仙普賢岳のもとに参りました。御承知のとおり、雲仙普賢岳、大変な災害で、四十数名の死者を出したということで、それにまつわる記念館をそのふもとに建てて、その様子を見てきたところであります。我々もやはりああいう建物があって、中で一つ一つどういったことがあるかということを一説明を受けたので、本当にこれはこういうことがあったんだな、これから防災の危機意識としてはこういうことが大事なんだなというふうに身を持って実感したところであります。当時の建物でありますから、あれは数十億円かかったと言っておりましたけれども、やはり今現実的には、御嶽のビジターセンターというものを検討されている中で、あれほど大きいものは私は現実的ではないだろうというふうに思っておりますが、やはりそういった機能は必要だと思っております。焼岳に関しましても、私はそういった山の危険というものをこれからは伝えていかなければいけないと思っておりますので、委員会の中であわせてしっかりと議論してまいりたいと思っております。

以上です。

(下沢副議長)

昨年、危機管理委員会の副委員長だった小川さん、いかがですか。

(小川修一議員)

この広報紙の関係なんですけれども、まずこれは委員会の委員長報告の中から抜粋したものですので、実際の委員会では、本年度は私は所属しておりませんが、かなりこれ以外のことも深く議論されることもありますので、そのあたりをまず最初に御説明したいと思います。

そして、先ほどの百瀬議員からありましたビジターセンターの件も、昨年から委員会の中でそういった意見が出されまして、それを受けて県とともに議会の方も協力していくと、そういうような流れになっておりました、現在の状況になっております。

それで、昨日、県の議員研修会がありまして、そこで冒頭、阿部知事の御挨拶がありました。その中で、今、部局横断とよく言いますけれども、例えば観光一つとっても、観光だけというのではなくて、防災ですとか道路整備とか、そうした危機管理建設の分野、いろいろな部局横断のことを総合的にやっていきたいというお話がありましたので、それは議会としてもそういう考えを持っている方がかなりだと思っております。

ので、取り組んでいければと思っております。 簡単ですけども、以上です。

(下沢副議長)

昨年、危機管理建設委員だった寺沢さん、いかがですか。

(寺沢功希議員)

ありがとうございます。

危機管理に関しましては、今、百瀬議員、それから小川議員の方からありましたとおりですので、今後ともやっていきたいと思いますが、観光の面でもう一つ、岐阜ということが出ましたけれども、私も仕事の関係で、岐阜県の新穂高温泉の方に一時通っていたことがあります。向こうは、安房トンネルを抜けてすぐ、平湯温泉の方ですね、新穂高温泉というところ、平日でも目いっぱい、どの部屋もいっぱいのお客様だということで、ぱっと見は松本の浅間温泉とか美ヶ原温泉と何ら変わらないんですが、なぜか向こうは人気があるというところで、やはりその人気はどこから出てくるのか。上高地に来たお客さんが、松本ではなくて実は向こうに泊まってしまうという、そこら辺がなぜなのかというところをもうちょっと向こうと情報交換をしながらやっていかなければいけないんじゃないかなというところも思います。

またもう一つ、今、東京からの観光客が、松本のなぎさライフサイトのスーパーマーケットのツルヤに寄ってお土産を買って帰るといいうんですね。私たちからとってみれば単なるスーパー、日常的に使うスーパーなのですが、実は東京から来るお客さんは、あそこが観光地、お土産屋さんとして使っている、魅力を感じているということなんですね。聞くと、やっぱり中がきれいで広くて、あそこに行くと地元の野菜が買えるし、それから県内の軽井沢だったり、あるいはこころ辺りでできたジャムだったりコーヒーだったり、そんなものが、地元のものが買えるということで、あそこが大変人気があるということなんです。

どこがその観光地になるのか、魅力を感じるのかというのは、やっぱり地元の感覚ではわからないところがあるわけですね。先ほどの話の中にありましたヤギも、単なる草取りだったり、あるいはミルクをとるためのヤギを飼っていただけというものが、実は観光客には魅力に感じて、それを見に来てくれるということ、本当に地元ではわからない観点というものがあられるわけですから、ぜひとも中からの目じゃなくて外からの目を見て感じて、これからは何を売り出していくのか、どうやったら観光客に来てもらえるのか、そこ等を研究していく必要があるんじゃないかなというふうに思っております。以上です。

(下沢副議長)

それでは、先ほどから農業のことも出ておりますので、農政林務委員会の和田さん、いかがですか。

(和田明子議員)

私もちょっとその前に砂防のことで、こちらでこういう活動をされているということには大変敬意を表したいと思います。長野県には、国の松本砂防もありますし、県としても砂防事務所を3カ所置いているというくらい、やっぱりその点では危険な地域が多いという位置づけですけども、地域住民の皆さんが

日ごろからそういう備えをしている、活動をしているということについては、本当にいろいろな意味で今日教えられました。今後ともまた御活躍いただきたいと思います。

私も今年農政林務委員会を担当させていただいているのですが、先ほど長野市区の選出と言いましたけれども、長野市も中山間地域、合併した地域も多くありまして、私も実は、こちら松本市の西の方ですけども、長野市でも西山という地域がありまして、犀川の西側の方なんですけれども、そこで暮らしているという中では、こちらとも共通するような課題も多くあります。特に今、エゴマがとても健康にいいということで広がっているのですけれども、西山方面でもエゴマを作付けして、確かに野生鳥獣との関係もあるし、それから作った後の扱いがとても軽いということで、人気もあるということで、作っても作っても足りない、油がもっとほしいというふうに引き合いが多いということでもあります。ただ、作った後の搾油では若干苦勞をしているということで、やはりこういう次の6次産業化していくようなところと結んで、さらに発展していくような形になればいいなと思っているところです。

あと、伝統野菜も多い、それから在来種も多いということですけども、長野県は伝統野菜には本当に着目をしていますし、そういうふうにして集落が点在するからこそ残ってきたというものに光を当てて頑張っているし、全国的に見ても、これだけ伝統野菜、在来のそういうものが保護されているのは全国一多いとお聞きしていますので、やはりそういうところにもっと着目してPRをするし、そういうものを絶やさずに作り続けるということが、これから守っていくほうが本当に大変だと思いますけれども、ぜひやってほしいなというふうにも思っているところです。

長野にもそばどころは幾つもありますけれども、やっぱり戸隠そばも在来の戸隠在来というものを復活させるということで苦勞があったという話も聞いていますので、そういう点でも、あるものに自分たちがもっと自信を持って頑張っていくということが本当に大事ななというふうに思いました。ただ、その点では、村の時代には県のそういう部局の支援が直にあっただけでもというお話がありましたので、その点は私もまた次の機会を捉えてお聞きして、つなげていけることがあればと思ったところです。

すみません、あと1個だけ。

山のことですが、さっきいろいろお話がありました。確かに材は大変価格低迷で苦勞しているんですけども、山の手入れは必要なことということで、手入れをした後に山に出てくるもの、今、薪ストーブの話とかもありましたが、長野市では、小規模ですけども、お山の発電所というものがありまして、エネルギーに変えて使うということで、大体300戸くらいの電気を賄えるだけの小さいお山の発電所なんです。それで、材のほかの枝葉とか、それから林地の残材をみんなそこへ持って行って発電をする。それから、家庭で出た剪定枝などもそこへ持って行って発電をする、そうやって地域で循環型エネルギーに結びつけていくこともできるということで、F・POWERとの関係はありますけれども、そこあまりかぶらない形でもできるものがあるのではないかなというふうに先ほどお話を聞いていて思ったところです。

いろいろちょっと長くなりましてすみません。

(下沢副議長)

ありがとうございました。

それでは、まとめに、地元のこの塩尻で酒屋をやっている丸山さんにちょっとまとめてもらおうかなと。お願いします。

(丸山大輔議員)

すみません、まとめは考えていなかったのですが、確認の意味でいくつか御質問をさせていただければと思ったので、ちょっとよろしいですか。

金原町会の奥原会長にお伺いしたかったのですが、森林税を用いた緩衝帯の整備ということで御要望をいただきましたが、もう1点、薪ストーブの推進も要望されたいということですが、具体的にはどのような推進を御要望されるのか。導入の補助金なのか、PRのお手伝いなのか、そこら辺のところのお考えがあったら、ちょっとお聞かせいただきたいと思います。

(下沢副議長)

奥原さん、どうぞ。

(奈川地区金原町会長)

今、先ほど申し上げたように、私どもの地区には広葉樹がいっぱいあります。それと、カラマツの間伐をやっても、カラマツだけじゃなくて、雑木やなんかも結構、ナラとかそういうのも間伐の中に入るのですけれども、それと、これから東京電力で行おうとしている、朝日と高山の変電所を結ぶ東西線の送電線の建設がありまして、そういうところで工事が行われますと、かなりの立木、雑木がいろいろ出てきます。そういうものを活用して薪ステーションを、まあ建物を建てるわけではないのですが、ストックヤードといますか、そこに集めたもので薪をつくる。そのような作業を、うちのほうは80、85歳を過ぎても元気なおじいさん方がいますので、そういう人たちに来ていただいて、みんなで薪をつくって売るなり、先ほど言いましたように、温泉にも薪ボイラーを、市の方にお願ひしなくてはいけないですけれども、導入したりして、そういう薪による活性化を図っていききたいという。今まではカラマツを使った材の活用をしていたのですけれども、今度はそれを転換して、広葉樹を使ったそういう薪を活用した施設といますか、ストックヤードをつくって地区を活性化していきたいというようなことを考えています。

(下沢副議長)

丸山さん。

(丸山大輔議員)

御説明ありがとうございました。ぜひ推進をできればと思います。

次に、奈川振興公社の一志さんにお伺いしたいのですが、先ほどエゴマ油、生産が追いついていないという状況だということもありました。これはどうやったらお手伝いできるかなと。もし何かそのお考えがあったらお聞かせいただきたいと思います。

(下沢副議長)

一志さん、どうぞ。

(奈川振興公社事務局長)

ありがとうございます。

今、生産のところでは、エゴマをまず原材料を安定的に生産していくということと、あとはそれを搾油する人が足りていないということもありますので、栽培の支援ということでもお願いをしまして、やはり地元で仕事になるような、しっかり産業に本当はしていかななくてはいけないのかなと思って取り組んでもいますので、そんなところで御協力をいただければと思います。

あと、ちょっともう1点で、和田議員からもお話をいただいた中で、農産物の栽培技術もそうなのですが、加工品とするときの技術指導などもしていただきながら、今、お話を聞いた中で思ったのが、中山間地域、長野県にはそういう地域がたくさんあると思います。中山間地域で連携しているような、全県の中山間地域を連携したような商品PRというのができたら、またちょっとおもしろいのかなと思いました。そういった中山間地域には個性的な産物が多いと思いますので、そんなことを、聞いていて思いました。よろしくお願いいいたします。

(下沢副議長)

丸山議員。

(丸山大輔議員)

ぜひ地域の特色を生かした農業、産業を生かして、観光にもつながる取組を我々考えていきたいと思えます。以上です。

(下沢副議長)

宮本委員。

(宮本衡司議員)

すみません、先ほど、去年観光委員会の委員長だから観光のことを話せと言われて、今年、実は総務委員会の委員長でございまして、ちょっと最後に一言だけ申し上げたいと思います。

どこの自治体も人口減、大きな課題なのですけれども、長野県の77市町村がございすけれども、人口の減少率が5%以上の市町村は、77のうち44あるんですね。長野県の人口って、ついこの間まで、私たち220万県民と言っていたのですけれども、今もういません。209万9,759人ですか、直近の人口は。そんな中で、じゃそんなに将来を悲観していいのかということもあるのですけれども、77市町村の中で、平成22年から27年までの間で人口の増えている市町村が長野県の中で三つあります。一つは南箕輪村です。これ、

6年間の間に520人増えています。次が御代田町です。これが二つ目。そして、最後は松本市なのでですね。減少している市町村の中で、この三つだけが増えているんです。片や、ですから残りの74は減っているのですけれども、このトップが実は長野市なんです。減少のトップが長野市。そして、2番目が飯田市、3番目が伊那市なんですよ。つまりは、決して都市部が増えているわけじゃないんです。さっき言いましたように、南箕輪村、御代田町、松本ももちろんですけれども、要するに小さい町や村だからといって、決して悲観することはないのです。いろいろな努力を重ねていけば人口は増えます。それはもちろん1年や2年で何百人も増えるということはありませんけれども、地道な積み重ねで、必ずその地域地域の特徴なり、いろいろな皆さん方の力を結集すれば、必ず人口というのはわずかでも増えていくのです。そういう長野県の事例もありますので、人口が減っているから地域が疲弊する、それは確かにそうなのですが、決して悲観することはないのです。今日お聞きした皆さん方の取組の中にでも、いろいろなヒントがあります。私たち県議会議員も、地元の県議会議員はじめ、連携して、とにかくその地域地域の特徴、そして皆さん方の努力、こういったものに私たちも微力ではありますが、力を尽くしてまいりたいと思っておりますので、ちょっと余計な話ですけれども、よろしくお願いします。

(下沢副議長)

ありがとうございました。

それでは、時間も来ましたので、最後に向山議長から、今回の意見交換会を踏まえての感想をいただきたいと思います。

○議長所感

(向山議長)

本日は、松本市の安曇・奈川地域の皆様方にこうした機会に御参加をいただき、本当にありがとうございました。

この「こんにちは県議会です」は、昨年は、長野県の南の地域の下伊那郡平谷村、売木村、これも非常に小さいまちなのですが、そのような中山間地のところで開催させていただき、今年はこうして松本地区の中で開かせていただきました。

今の意見交換を私もお伺いをしておりまして、やっぱり自分たちの住む地域を何とかしようという思いの中から、さまざまな取組だとか考え方をお伺いさせていただきました。具体的に言えば、自分たちの地域の寒暖の差、気候、そういった地域のもを有効に活用していこうという取組だとか、また地域資源を生かした特産品を何とかつくりたいというふうな取組だとか、小水力のような地域の資源、これも長野県の場合、非常に小水力に向いているというのは、急峻な河川がたくさんございまして、落差が大きいものですから、小水力に取り組みやすいという地形を長野県は持っておりまして、今、それぞれあちこちで、土地改良区だとか、いろいろそのような小水力の取組をしておりますけれども、こうした地域資源を有効に活用して自分たちの地域のよさをPRする、またそれを地域の活性化につなげていくということを取り組んでいるような姿勢や御意見をお伺いさせていただきました。

また、実際に生活をしていて、この地域での課題の中でも人口減少対策というのは、これはもう県内どこへ行っても今のところ共通の問題でありますから、移住・交流の取組というのはそれぞれが地域で行っているわけでありまして、生活をしている中で、とにかくちょっとした災害でも道路が止まってしまって、非常に生活に困るとかいう意味での災害に強い地域づくり、これは砂防にしても、地すべりにしても、道路の通行止めにしても同じなのですが、こうしたことによって地域が孤立してしまっただけで困るといような課題のお話をお伺いいたしました。また長野県は大変山が多いわけでありまして、昔は森林県、今は県の方では林業県とあって、木を活用して長野県の活性化を図れないかというように転換を図っているわけでありまして、こうした山の中で、それぞれの地域の中で、特に農業、農産物の被害が、鳥獣対策を進めなければ困るといような要望がたくさんございまして、鳥獣対策の方にも今、力を入れておるわけですが、こうした山の手入れ、荒廃した森林整備を森林税を活用して何とかできないかというように問いかけもございました。またこうした野生の動物と人とのすみ分け、緩衝帯を設けるということも一つの手段であろうと思っておりますが、こうした地域に根づいた、また自分たちの地域を何とか発展をさせていこうという中から出てきた、それぞれの御意見を私どもも今お伺いをさせていただきまして、またこれは全議員の中でも、それぞれの立場の中でこうした問題、皆さん方からいただいた要望や御意見を有効に活用させていただきまして、何とかそういった要望の一つでもお応えできるような、また解決をしていかなければならない問題については、解決をしていくというように取組につなげさせていただきたいと思っております。

今日はこうして身近なところで話をさせていただきましたが、私が思っていたよりは、ちょっとまだ硬かったかなと。もう少し懇談というか、ふだん着のまま話合いをしたほうが、もっとよりよかったのかなという気はいたしておりますけれども、それぞれの皆さんからそんな意見を頂戴いたしましたので、私どもは皆さん方の御意見を大事にして、これからの県政の取組に生かさせていただきたいと思っておりますし、また皆さん方の御期待にもお応えをしていきたいと思っております。

今日のこうした機会を、長野県政も直接、市町村の行政と違って日ごろの接点が非常に少ないものですから、ぜひ県政の取組にも関心を持っていただいて、お気づきの点はもうどんどん遠慮なく言っていただくと同時に、また皆さんも自分たちの地域をはじめ、長野県の発展のために一緒にお取り組みをいただければ幸いだなというふうに思っております。

今後ともぜひ長野県政のこと、また県議会のことも御理解をいただき、お力添えをいただきますことをよろしくお願いを申し上げまして、私の所感とさせていただきます。今日はありがとうございました。

(下沢副議長)

議長、ありがとうございました。

先ほども出ました「小さくてもきらりと光る」、そういうふるさとを愛する気持ちを今後も大切にしていただいて、どうか今後も御活躍をいただきますことを御祈念申し上げまして、この「こんにちは県議会です」松本市安曇・奈川地域を終了させていただきます。

本日は本当にありがとうございました。